シンポジウム IV

心・血管領域におけるレーザー治療の現況と展望

岡田昌義¹⁾, 内田康美²⁾Masayoshi Okada¹⁾, Yasumi Uchida²⁾神戸大学第2外科¹⁾, 東京大学第2内科²⁾

近年、レーザーの医学への応用には非常にめざましいものがあり、各分野において普及しつつある。このように医学領域での応用が高まりつつある時期に「心・血管領域におけるレーザー治療の現況と展望」に関するシンポジウムが行われることは、誠に当をえたものと考えている次第である。とくに、心・血管領域でのレーザー応用はそのスタートが最も立ち遅れていたのであるが、レーザー器械の発達や血管内視鏡の応用や血管内エコー法などの開発や改良とともに最近に至り、本邦でも臨床応用が開始されるようになった。

今回のシンポジウムでは、この領域で活躍されている6名のシンポジストにおける施設での成果を報告して頂くことになっている。

すなわち、大きくわけて末梢動脈における閉塞性動脈硬化症のレーザー治療と冠動脈硬化症に対するレーザー治療の2つに分類される。

本邦におけるこの分野でのレーザー治療はまだ緒のついたばかりであるが、各施設での成績を述べて頂いた後は討論として以下の点に焦点をあてて行いたいと考えている。すなわち、

1) 心・血管領域にレーザーを応用しようと考えた動機、2) 使用しているレーザーの選択と条件、3) レーザー応用の適応、4) レーザーの応用によってもたらされた利点、5) 遠隔成績、6) 合併症とその予防、7) 問題点と将来

への展望、などである。

以上の討論項目はNew deviceを用いる場合には常に問題とされるものばかりであり、納得のいくまで十分に討論したいと考えている。

また、シンポジウムの間に時間の許す限り参会者の方からも質問をうけ、有意義な討論の場にしたいとも考えている。